

「45th ミーティングに関する報告書」(2005.7.30)

戦略研45th ミーティング 議事録

「少子化の問題点とはなにか? 3 ～少子化と年金～」

2004年7月30日(土) 14:00～18:00

東京・竹橋

参加者(15名)

経営戦略コンサルタント、SE、FP、会社員、大学生、人材採用コンサルタント、ラジオパーソナリティ、行政書士、司法書士他

企画 2005戦略研少子化問題委員会

趣旨

1. 4月、6月のミーティングにて、「そもそも少子化って問題なのか?」あるいは、「少子化を問題点としたいのは誰か?」というディスカッションが行われてきました。そこで、今回は、少子化を問題点と捉える最大のものであろう年金制度」をメインのテーマとします。

概要 1) 会の説明
2) 参加者による近況報告
3) 発言・ディスカッション「少子化と年金」

内容

- 1) 会の説明
 - ・ 会の立上げから現在までの沿革、またNPO法人など現在の各プロジェクトについて説明
- 2) 参加者による近況報告
 - ・ 競合他社にコンペで勝って忙しい夏になる。
 - ・ 農業関係でNPOを設立することになった。
 - ・ 大学の代表として愛知万博に出ることになった。
 - ・ 卒論のテーマで農産物のブランド力について書いてみたい。
 - ・ 9月に屋久島に行くことになった。
 - ・ 刺激を求めて来ました。8月にディベートの大きな大会がある。
 - ・ 楽天の情報漏えいがその他の企業のシステム面での改変へ大きな影響を与えている。
 - ・ グリーツーリズムについてレポートを作成しているが情報が多くまとめるのに苦労している。
 - ・ 国際協力NGOセンターでボランティアをしている。
 - ・ 就職活動を中止して公認会計士を目指すことにした。
 - ・ 人といかに信頼関係を築くかをよく考えている。

- ・ 野菜のソムリエの店に取材に行った。
- ・ 女性の視点で書かれた少子化に関する書籍を読んでいる。
- ・ 地震の時に三つの災害に遭遇した。熱帯魚店で水を被り、車で渋滞に遭遇し、帰宅の際にエレベーターが止まっていた。
- ・ 顧客満足についての勉強会を主宰している。
- ・ プロジェクトを見る側から引っ張る側になった。失敗からは失敗しか見出せない。成功から成功を学ぶことを知った。
- ・ 本の執筆依頼が来た。が、出版社の仕事に対するプロセスそのものが合わずに辞退した。

3) 発言・ディスカッション「少子化と年金」

レジメ：「少子化と年金」

発言者より

- 年金クイズを用意
- 発言
 - ・ 年金の受給資格は25年以上支払っていること。
 - ・ 厚生年金は被用者年金とも言う。
 - ・ 公的年金の種類
 - ・ 船員年金は廃止の方向へ向かっている。
 - ・ 企業年金の種類について
 - ・ 企業年金のほとんどは会社が運用されて戻ってくるが、最近運用し切れなくて解散するものも増えている。
 - ・ 公的年金の構造：保険料納付期間25年以上（免状期間も含む）
 - ・ フリーター、ニートへも猶予期間が設けられる予定。
 - ・ 支給要件を満たしていない人は一円ももらえない。
 - ・ 年金の意味とは、一年間にもらえる金額のことを言う。
 - ・ 年金の裁定依頼をすると受取額が分かる。またデータ化されていないことも多く裁定に時間がかかることもある。
 - ・ 社会保険事務所単位で情報を管理していることが多い。ただ事務所単位のデータはまだ共有されていない。
 - ・ 年金制度の変遷について
 - ・ 自営業者の奥さんは三号被保険者には入らない。（税金の定義とは違う）
 - ・ 給与を貰っている人の配偶者も三号被保険者になる。（年金の定義）
 - ・ 公的年金の目的は、勤労世代から退職世代への財の移転である。
 - ・ 公的年金は世代間扶養のために存在する。
 - ・ 積み立てではない！（「損得ではない」と社会保険庁）
 - ・ 年金の積み立て金額は約150兆円。その積み立て金額は給付金額の5年分に相当する。

- ・ 現在の財政見通しは、最悪パターン：少子化進行＋経済悪化で2065年まで維持
- ・ 少子化好転＋経済好転のケースで2100年まで維持可能。

●フリーディスカッション

- ・ 子供を作って老後に仕送りしてもらうように各家庭で準備すれば良いのでは。
- ・ 子供のいない家庭にとっては必要なシステムであると思う。
- ・ 今いるお年寄りに支払っていると思えば気にならない。
- ・ 年々増えていく支払額には疑問がある。
- ・ 自分が払っている年金が今の老齢世代を支えていると思ったら、年金は意外に必要なシステムだと思った。
- ・ 公的年金も私的年金も仕組みは理解できたが、納得できない部分もある。
- ・ 第一号被保険者2207万人 第二号被保険者3676万人 第三号被保険者1133万人いる。
- ・ 公的年金ほどデリバリーの良い金融商品はない。ただし、これから段階的に取得できる年金額が減少する傾向はある。
- ・ やはり相互扶助の精神がいるのでは。
- ・ 年金であつめたお金を政府や社会保険庁がちゃんと運営しているかの方が大事では。
- ・ 財政投融资というものの自体がブラックボックスだったことに問題がある。
- ・ 女性の観点から見ると、少子化が進むことは女性の労働人口が増えている事実があると思う。
- ・ 女性の社会進出が少子化に繋がっている事実も認識している。
- ・ 会社で401Kの導入に伴い、同僚は一時金を選択する人が多かった。個人個人の認識に問題があるような気がする。
- ・ 今までは良く分からなかったがこんな便利な仕組みであったり、相互扶助の認識がなかった。現在学生で親の話なども聞いてきたが、意義のあるものであると認識した。

Q. 現在401Kはどのくらいの企業が導入しているのか？

A. まだあまり導入されていない。普及できていない。

Q. 企業（金融機関）にとってはビジネスチャンスでは？

A. 個人年金を対象に投資型個人年金という金融商品を中心にビジネス展開している。

- ・ 基本的な制度としては無くてはならないと思う。
- ・ 100年後まで維持可能かどうかを今の世代だけで考えるのはどうかと思った。長期的に考えることの難しさを感じた。
- ・ 高度成長期に社会全体を守っていくという制度が出来上がったこと自体は良かったと思う。しかし、その制度が崩壊しつつある現状をみると心の中では少し損をしたなという気持ちもある。
- ・ 普段は自動的に引き落とされて関心が薄かった。
- ・ 「支給開始から8年で元を取れる」という事実をどれだけ多くの国民が知っているのか。
- ・ システム自体は必要な制度だと思う。これを支えていく上で少子化が進行すると負担が増えるのは

問題だと思う。

- ・ 相互扶助と捉えるか、積み立てと捉えるかで大きく変わるのでは。
- ・ 毎月の給与明細を見るたびに複雑な心境になる。
- ・ 年金制度自体がまずい状態になっていると報道で聞いていたが、意外とまだマシな状態であると思う。すこしインパクトが減った。
- ・ 40代以降の方々と議論をすると、その人たちは基本的に年金を期待している。
- ・ それ以前の若い世代はあまり期待していないような気がする。
- ・ 公的年金の理念そのものを理解できたことが収穫であった。
- ・ 社会保険庁の問題と公的年金自体の問題は切り離して考えたほうが良いと思う。
- ・ 150兆円の積立金があることでしばらくは破綻することはない。

次回について

- ・ 次回は10月1日に開催。テーマは「企業の少子化対策」

以上。